

# 令和2年度 ワークセンター夢の樹就労定着支援 事業報告書

## 1 総括

令和2年度は利用者の多くが自宅待機や在宅勤務になるなど、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた年となった。しかし、オンラインを活用し、特に不安感の解消など心理面を重視した支援を行うことで、離職者は出なかった。また、経営面でも、オンラインの活用で支援量を確保したほか、令和元年度の職場定着実績と利用者2名増に伴う収入の増加で、安定した経営を維持できた。一方で2名の利用者が所得の増加に伴い給付費の1割を自己負担することとなり、内1名は経済的な負担感から利用回数の減少に繋がった。令和3年度以降、一割負担への対応が新たな課題となると考えられる。

## 2 事業概要

- 1) 施設名                   ワークセンター夢の樹
- 2) 事業種別               就労定着支援
- 3) 所在地                 東京都小平市大沼町2-1-3
- 4) 経営主体               社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員               なし
- 6) 利用現員               12名（令和3年3月31日時点）
- 7) 法人認可年月日       平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日       平成30年 5月 1日
- 9) 職員                    管理者 1名  
                              サービス管理責任者 1名（兼務：常勤換算1.0）  
                              定着支援員 1名（常勤換算0.5）

- 3 基本理念       一人ひとりの自己実現。  
                      互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。  
                      安心と希望のもてる生活。

- 4 基本方針       相談を通じて就労や生活面の課題を把握するとともに、企業や関係機関との連絡調整やそれに伴う課題解決に向けて必要となる支援を実施する。

## 5 実施事業（活動内容）および重点課題

### 1) 定着支援の流れと支援機関の役割分担

就職後の期間                   支援機関

- ・就職後6か月未満           直前利用の障害福祉サービス事業所（就労移行支援・就労継続支援等）
- ・就職後6か月以上           定着支援事業所ー利用期間3年
- ・就職後3年6か月以上       就労生活支援センター、就業・生活支援センター等

#### 【成果と課題】

新規利用者2名は同法人内で一体的に運営している就労移行支援事業からの就職者であり、支援の引き継ぎはスムーズに行われた。また2名の利用者が平成30年度の事業開設以降初の利用期間満了となり、就労・生活支援センターほっとに支援を引き継いだ。今回引継ぎを行った2名は元々ほっとの登録者である為、職場同行1回と支援情報の提供のみの引き継ぎとした。

### 2) 定着支援の内容

#### (1) 本人支援

- ①職場定着支援計画（個別支援計画）の作成及び評価と見直し。
- ②電話での相談対応。（随時）
- ③就職者本人と月1回以上の面談。
- ④原則月1回の職場訪問。ただし、本人及び企業の状況に合わせて実施する。

⑤本人了解の基、家庭、関係機関等との情報共有及び支援の連携。

**【成果と課題】**

新型コロナウイルスの影響で職場訪問や面談が計画通り実施できず、緊急事態宣言時は利用者の多くが在宅勤務や自宅待機、勤務日数の減少となった（4月・9名 / 1月・7名）。オンラインの活用や就労移行への通所による生活リズムの維持、自宅訪問などできる限り対面での支援を行うとともに、利用者の様々な不安を聞き取り、解消に向けての情報伝達やアドバイスを行い、離職者は出なかった。

**(2) 企業支援**

- ①定着支援事業所の業務内容の説明。
- ②雇用継続のための相談対応や助言、関係機関の利用。
- ③障害者雇用に関する情報提供。

**【成果と課題】**

就職前から丁寧に定着支援事業の説明を行い、支援に対する企業側の理解が得られた。コロナウイルス感染症の流行により訪問不可となる企業が多かったが（4月・9社 / 1月・5社）、メールや電話、オンライン面談により支援を継続した。相談内容は、自宅待機や勤務日数が減少している利用者に対する支援の依頼や、利用者の特性に関するものが多かったが、丁寧に対応することで課題解決が図られ、支援体制に安心感があるとの評価を得た。

**3) 業務の効率化**

- ①企業訪問のスケジュールの効率化。
- ②スケジュールアプリの活用による情報共有の強化。

**【成果と課題】**

- ①新型コロナウイルスの影響で企業への訪問は減少したが、利用者数の増加に伴い自宅訪問が増えたため、前年度より外出が増加した。近い場所を同日に訪問するなど、スケジュールを工夫することで効率的な支援を行った。
- ②スケジュール管理のアプリを導入し、他の職員のスケジュールを外出先で把握できるようになったことで、次のアポイントを訪問先で取得することが可能になり、効率的な訪問スケジュールを組みやすくなった。

**4) 人材育成**

定着支援担当者

**【到達目標】**

- ①定着支援のスキル向上
- ②業務標準化の実施

**【成果と課題】**

新型コロナウイルスの影響で外部の研修は実施できなかったが、支援内容の共有や可能な範囲で2名体制による訪問や面談を実施したことで、お互いの支援方法などについて意見交換が活発に行えた。昨年度入職した職員も1年半が経過し業務標準化が進んだ。

**5) 経営管理**

**(1) 訓練等給付費収入の安定**

新規利用者の確保一年間目標人数4名

※令和2年4月1日現在12名（年間黒字収支には最低10名の利用者が必要）

- ・昨年度作成した関係機関訪問及び電話連絡年間計画表をもとに、ワークセンター夢の樹就労移行支援と連携し近隣の就労支援センター、ハローワーク、特定相談支援事業等へ利用者募集を行う。
- ・法人機関紙およびホームページへのチラシ掲載などの広報活動を行う。

**【成果と課題】**

令和2年度の新規利用者は2名となり、目標の4名は達成しなかった。令和2年度の就労移行が輩出した就職者4名のうち3名が6か月間のトライアル雇用制度を利用した結果、令和2年度内

に当事業の利用開始とならなかったことが大きな要因である。また、2名の利用者が、所得の増加に伴い給付費の1割を自己負担することとなり、内1名は経済的な負担感から利用回数の減少に繋がった。総括に記載の通り、このことへの対応が次年度以降の課題となると考えている。

(2) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

令和2年度の予算執行状況は収支ともに概ね計画通りであった。令和2年度のみでなく、令和3年度以降の運営も見据えた試算を行った。現在の報酬単価であれば年間延べ125名の利用者で安定した経営が行える試算となるが、令和3年度は延べ131名の利用者数と見込んでいる。黒字経営に必要な基本単位数と利用者数の関係を把握することで、次年度の利用者確保の目標数が設定できる効果があった。

6 事故等報告

1) なし。

7 開所状況

1) 開所期間 自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日  
2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間  
(2) 開所時間 午前9時～午後5時  
(3) 年間延開所日数 243日間

8 利用状況

1) 利用者延人員 161人

9 利用者状況 (令和3年3月31日現在)

1) 年齢

20歳以上30歳未満	5名
30歳以上40歳未満	5名
40歳以上50歳未満	1名
50歳以上60歳未満	1名

2) 障害の状況

愛の手帳3度	1名
愛の手帳4度	4名
精神障害者保健福祉手帳1級	1名
精神障害者保健福祉手帳2級	2名
精神障害者保健福祉手帳3級	3名
身体障害者手帳2級	1名

3) 居住状況

管内居住 10名 管外居住 2名

4) 性別

男性 9名 女性 3名